



第1号

ひょうたん塾通信

2013年10月号

主催：ひよっこりひょうたん塾運営協議会
ひよっこりひょうたん塾プロジェクト実行委員会
大槌町・東京都 / 東京文化発信プロジェクト室 (公益財団法人東京都歴史文化財団)

平成25年度復興支援の担い手の運営力強化実践事業 © 井上ひさし / 山元護久 / ひとみ座 / NEP21 / キャラクターデザイン 片岡昌

ひよっこりひょうたん塾について

ひよっこりひょうたん塾(以下、塾)は、大槌町の重要なシンボル「ひよっこりひょうたん島」を資源に、大槌の文化的価値を最大化し、復興段階における地域活性化や産業振興とその担い手の育成を目的とした事業を行っています。

大槌町の赤浜地区の前面に浮かぶ蓬萊島は、その形状から「ひょうたん島」と呼ばれ、地域に親しまれてきました。島には弁天様が祀られており、地元伝統芸能の名称にも名を残すなど、歴史的資源としての重要性も高いと思われます。さらに、NHKの人形劇である「ひよっこりひょうたん島(以下、人形劇)」の作者である故井上ひさし氏が、青少年期を釜石市で過ごしたことや、島の赤い灯台が目立つ独特な佇まいが人形劇の舞台と類似していることなどから、かねてより、蓬萊島は人形劇の舞台のモデルではないか、と言われてきました。

東日本大震災により、激甚な被害を受けましたが、陸側から見た蓬萊島は以前と同様の形をとどめています。その姿と、ひよっこりひょうたん島のストーリーや「苦しいこともあるだろうさ 悲しいこともあるだろうさ」歌のフレーズに共感するなど、は町民の心のケアに非常に大きな役割をもつ存在であると感じます。

最近では、蓬萊島を舞台に自動車メーカーのCM等でも用いたり、来年には人形劇が放送開始50周年を迎えること等、注目を浴びつつあります。

そこで、今年度の塾は、ひよっこりひょうたん島運営協議会として、大槌町、東京都及び東京文化発信プロジェクト室(東京都歴史文化財団)との協働により開催となりました。塾では、ひよっこりひょうたん島のストーリーになぞられるような、これからの地域振興や産業振興への参画を広く町民に伝えていきます。さらにその担い手の育成を目的とした人材育成事業を行っていきます。ひよっこりひょうたん島が、地域の資源として活用していける機運が高まることを期待しています。



2013年9月8日(日)開催 第一回ひよっこりひよたん塾 我がまち自慢のドン・ガバチョ

4人のドン・ガバチョ候補と仲間がその想いと夢を表現

第一回ひよっこりひよたん塾は9月8日（日）サイドタウンマストにて開催されました。今回はひよっこりひよたん島のキャラクター、ドン・ガバチョの為政者としての主体性や細かなことは気にしない精神を学び、「主体性と鈍感力育成」というテーマで4人の我がまち自慢のドン・ガバチョの思いや夢を塾生で「選挙ポスター」という形で表現し投票を行いました。

4人のドン・ガバチョ候補と夢

第一部は、大阪河内長野市から駆けつけてくださった「ミレニア吹奏楽団」の皆さんによる音楽タイムで、スタートしました。マスト内のセンターコートで、迫力のある演奏を披露してくださいました。すっかりおなじみとなった「ひよっこりひよたん島」が響き渡ります。これまでも、私たちを励ましてくれるこの曲に、会場からも拍手が起きました。そのあとは、今回のひよたん塾のスペシャル特典「ひよっこりひよたん島」の第一話を鑑賞しました。参加者の中には、テレビ放映を見たこともないし、ちゃんと内容を知らない...という人も少なくありませんでした。登場して個性豊かなキャラクターの虜になり、見



入ってしまうほど。記念すべき第一話を見た「ひよっこりひよたん島」を知らない世代も「続きが見たい」「おもしろい」と感想を話していました。

続いて、川崎好貴さん（KAI大槌）、川端雄貴さん（会社員）、佐々木亮さん（新生おつち）、臺隆明さん（会社員）の4名の「ドン・ガバチョ候補がそれぞれの「夢」これから大槌でやっていきたいこと」の表明をしました（3ページ参照）。

その後4つのグループに分かれ、それぞれのドン・ガバチョ候補が塾生にこれまでの活動や今後の方針などを説明し、質疑応答。真剣さの中にも時折笑い声が響き和や

かなムードも。その後夢が書かれた模造紙に塾生が、応援メッセージや意見が書き込まれた「いいね！」カード貼付けました。

カタチにして人に伝える

午後に入り第二部はファシリテーターの遠藤智栄さんより、夢を町民の方々に知ってもらい実現へ向けていくための発信の仕方、ファシリテーターについての説明、また発信するための手段としてポスターを作ることに提案がなされそれぞれ4つのグループが4人のドン・ガバチョのポスター制作を行いました。

ポスターを作るヒントとして

いいポスター

・いいことがパッと目に入ってくる

・写真でインパクトがあり人の目をひく

悪いポスター

・何をするかわからない・ゴチャゴチャしている・連絡先が書いていない

という点が塾生より挙げられ、各々がこの

点に留意しながら4人の夢の目的、イメージを一枚の紙に表現する作業を行いました

（3ページ写真が作品の一部です）。そして

グループごとにポスターのプレゼンを行い

いよいよ投票へ。一つ一つが甲乙つけがたい力作で投票を迷うほど。ストーリーに「なるほど！」と唸るようなもの、一言の「コピー

がわかりやすく笑いを誘うもの、イラスト

が美しいものなど短時間ながらも非常に内容の優れた作品が提示されました。

第三部は今後の塾の方向性について、ひよたん塾を通じてまちづくりやビジネスにどの様に町民の皆さんを巻き込んでいくか、来年2月に行われる島サミットにおいてこの島をどう活用していくかなどが話し合われました。



様々な切り口で町民にアピールし、多くの夢や思いを持った人が入りやすい雰囲気を作り、来た人を活かし、ビジネスという枠の中でやる人、ビジネスこだわらず活動する人、どちらにおいても今後も専門家と結びつけたりブランディングを行ったり専門的な知識をどう身につけるかを学んだりしていただくことで、今後多くの方々に塾を活用していただきたいと思えます。

IT会社として新しい産業基盤を

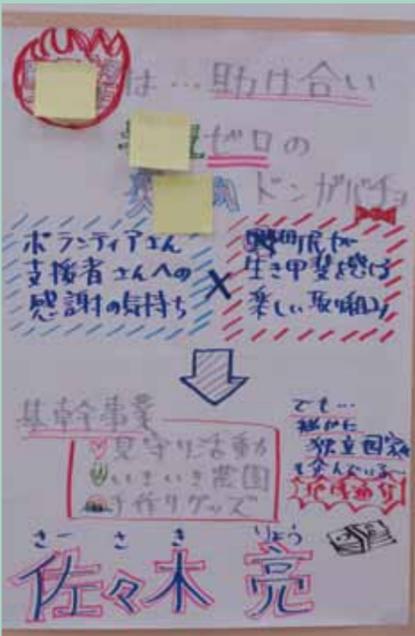


川崎好貴さん



ITを通して産業、雇用基盤を作り、同業の人たちと横のつながりを持ってみんながプラスになるような、そしてこれからの大槌を変えていくような活動をしたい。

助け合う精神のまちの基盤づくり



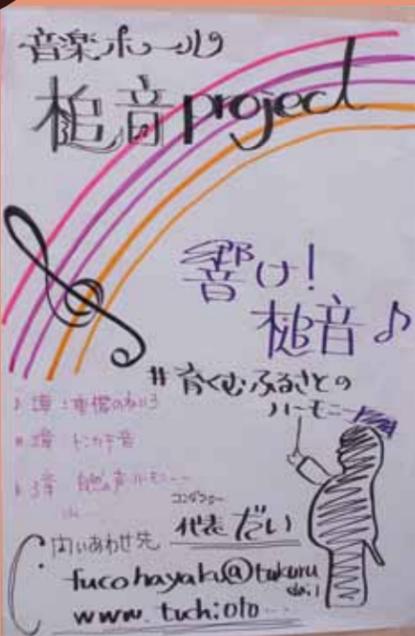
佐々木亮さん



ボランティアの方々と連携し見守り活動を続け、助け合う精神のまちづくりに取り組んでいきたい。また、他団体と連携し地域通貨を準備中です。

4人のドン・ガバチョたちの夢

音楽をきっかけに集まる場を作りたい

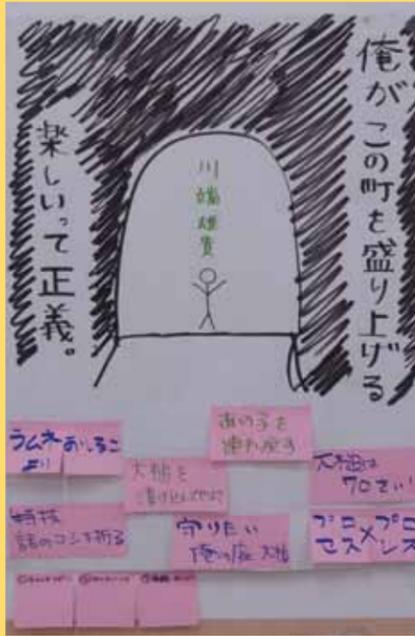


臺隆明さん



音楽ホールなど、学生時代に吹奏楽部にいたり音楽が好きな若い人が帰って来て集まれるような場を作りたい。文化というものの復興を目指していきたい。

来て楽しかった、と思われるような紹介を



川端雄貴さん



大槌は長く滞在して魅力がわかるスルメのような街。ウィンドサーフィンやアトラクションなどの楽しみ方をつなげてお客さんをもてなす文化を作っていきたい。

【コラム】
これからもずっと

「蓬莱島」「ひょうたん島」・・・こちらのほうが有名になっている今。でも、大槌人には「弁天」・・・物心ついたときからみんなそうだと思う。

改めて思う。綺麗。

あの時は、「ひょっこりひょうたん島」のようにどこかに行ってしまったのではないかって、少し思ってた悲しくなったこともあったけど。

でも、今でもちゃんと同じ場所にある。見える形は変わっても、変わらず。あの場所で、ちゃんと私たちとともにある。

塾生募集

大槌の未来を担う専門 人材を目指そう

町を元気にしたいそのあなた！島で夢を語り、オラ達で「まち・しま育て」ができるんです！

下記のリーダー目指し、企画く本番まで夢や想いをカタチにすることを一緒に体験しませんか？

どなたでも参加無料です。

大槌人にとって、弁天での思い出がひとつは必ずある。小さくても、いつも私たちの心にちゃんとあるし、そこに行けばよみがえるものを、みんな持っている。前はなんとも思ってたけど、でも、やっぱり行ってみたいくなるし、感じてみたいくなる。

そこに行けば、やっぱり海が好きだと感じるし、心のモヤモヤを取り除いてくれるような気がする。これからもずっと、私たちの近くにあつて、また思い出を作れる場所になってほしい。

私たちの自慢。大槌の自慢。

一兜 育恵



「大槌の広告代理人」

イベントプランナー・プロモーター

(イベント企画・運営を行う専門家)

「冷静と情熱の仲介者」

ファシリテーター

(会議やワークショップ等の進行の専門家)

「見た目と伝え方請負人」 広報担当

「縁の下の力持ち」 事務局担当

申込み・問い合わせ

ひょっこりひょうたん塾事務局

(下記参照)

【事務局日記】

「ひょっこりひょうたん塾」がスタートしました。これからの「まち」を一緒に育んでいく仲間がどんどん集まっていく事を期待しています。

大槌の蓬莱島がモデルではないかといわれている「ひょっこりひょうたん島」のストーリーには、たくさんの個性あふれるキャラクターが登場します。島でのくらしは、知恵や力を出し合いながら、共に乗り切る過程が描かれています。時には失敗、うまくいかないこともあります。しかし、一緒に立ち向かい笑って(ユーモアのセンスを持ち)前に進んでいく話です。

♪泣くのは嫌だ。笑っちゃお。進め♪、ひょうたん島主題歌に、大槌の現状を重ねられる気がします。ユーモアや芯&心の強さは、震災にも屈しない大槌人の魅力であり、力なのではないでしょうか。

ひょうたん塾は、今回のドンガバチョのように、「明日がだめなら、あさってにしましょ。」と、様々な困難に対して屈せず、前に進んでいこうとする「まちの担い手」の応援団として今後も続けていきます。「ドン・ドン頑張っている人を、ちょっと応援してみよう！」(ドン・ガバチョ)」
これからのまちに、今後も新たな話が生まれていくことでしょう。

元持 幸子



【ひょっこりひょうたん塾 事務局】

Eメール：hyotanjyuku@gmail.com

電話：090-6229-4621

HP: <http://hyotanjyuku.jimbo.com/>

FB: <https://www.facebook.com/hyoutanjyuku>

詳しいレポートやスケジュールなど、随時更新中!!